

社会人の先輩たちから秦野高校生へのメッセージ

校長 神戸秀巳

秦野高校はこれまでキャリア教育を実践する中で卒業生の皆様にご協力をいただいてまいりましたが、組織的かつ着実に講師を確保することを目的に、平成 26 年 10 月に「秦野高校『広陵人材バンク』」を発足させました。

◆ご協力いただいた皆様（一部）を紹介します。 ※年齢は平成 27 年 3 月末時点

[ホームページへの掲載許可済]

【Aさん】 平成 22 年卒業 23 歳

〔部活動〕 なし

〔進学先〕 東京理科大学理学部

〔職業〕 私立の高等学校 常勤講師（1 学年担任・数学科）

〔秦高生へのメッセージ〕 勉強、学校生活、交友関係等、高校生活のいましか得られないものが秦高には沢山あります！いまという時間を 1 分、1 秒大切に過ごして、成長していきましょう。応援しています。

〔その他〕 秦野高校では毎日が思い出です。とにかく高校が楽しかった。今でも会うほど大切な友達ができ、信頼できる先生にも出会ったことで、高校生活というものは非常に充実していました。友達、先生、そして自分の三者がマッチしていたからこそ、秦野高校に入ってよかったと感じています。

【Bさん】 平成 17 年卒業 28 歳

〔部活動〕 バドミントン部、文化祭実行委員

〔進学先〕 立教大学コミュニティ福祉学部⇒アメリカの州立大学へ 1 年間の交換留学

〔職業〕 会社員（海外営業職：海外駐在員としてオランダ駐在中）

〔秦高生へのメッセージ〕 自分自身に期待を抱き、自らを高めていきましょう。秦野高校の伝統である「文武両道」の意味を正しく理解し、志を高く持ち、「バランスの取れた優秀な人間」を目指してください。皆さんの活躍を期待しています。

〔その他〕 遅刻や欠席の多い不真面目な生徒でしたが、仲間に恵まれ、楽しい毎日でした。実行委員として、正門を彩るアーチを制作した広陵祭や、大きい湯呑みを獲得したマラソン大会など、多くの思い出があります。仕事では、「世界中の人々の命のために仕事をしている」というやりがいがあります。また、毎日が海外との異文化コミュニケーションです。「日本を代表して、世界を舞台に活躍している」という自信と喜びを感じています。

【Cさん】 平成 17 年卒業 28 歳

〔部活動〕 サウンド研究部

〔進学先〕 現東京都市大学工学部

〔職業〕 中高生への IT 教育会社で現場設計・映像担当

〔秦高生へのメッセージ〕 起業や世界中にサービスを提供するなど、活躍する中高生が

増えています。でも、その人達と皆に差はなくて、知ろうとしたか？挑戦したか？の違いです。情報を吸収して、挑戦して、世界を変えてください。

〔その他〕 高校での最大の思い出は広陵祭実行委員長をやったこと。多くの人と協力して一つのものを作り上げていく経験はなかなかできない。この経験が仕事でも活かせていると思うので、思い出し、やり切ったことが自信になっています。

【Dさん】 平成17年卒業 28歳

〔部活動〕 弓道部

〔進学先〕 明治学院大学国際学部⇒神戸大学大学院国際協力研究科

〔職業〕 ※神戸大学大学院国際協力研究科博士課程後期4年（博士論文作成中）

〔秦高生へのメッセージ〕 生徒のやりたいことを尊重してくれる学校だと思いますので、学校行事含めやりたいことを積極的に一生懸命に取り組んでいってほしいです。そして、自ら視野を広げていってください。

〔その他〕 小学生の頃から途上国での開発分野で働くことを志望し、院進学を考えていました。学部在籍中にシリアへ渡航し、当時イエメンでの女子教育プロジェクトや海外インターンの機会が充実する神戸大に院進学を決めました。

私自身、いまだ大学院生という学生の立場にあり、国連機関やNGOをはじめとした開発分野でのキャリア構築の途中にあります。現在はアフリカのジンバブエという国に滞在し、博士論文執筆のためのフィールド調査の準備をしているところです。ちゃんとした社会人経験はまだありませんが、これまでの海外でのインターン経験(国連機関やNGO、政府関係機関など)ですとか、海外滞在経験などを通して、後輩たちの刺激に、そしてキャリア構築に貢献できればと思います。

教育実習で秦野高校に戻った時に、「将来は先生のように教壇に立ちたい」と目を輝かせて声をかけてくれた後輩のことを思い出しました。

【Eさん】 平成15年卒業 30歳

〔部活動〕 吹奏楽部

〔進学先〕 新潟大学工学部⇒新潟大学大学院自然科学研究科

〔職業〕 建設コンサルタント業

〔秦高生へのメッセージ〕 私たちの暮らしは、会ったことも、話したこともない人との「役割分担」で成り立っています。自分が育てたわけじゃない野菜を食べたり、自分が運転するわけじゃない電車に乗ったりするために、人は自分でも自分の「役割」を持たなければならないくて、それを「仕事」と呼ぶんだと思います。仕事の対価(=お金)は、“誰かの役割のお世話になる権利”です。

一方で勉強は、自分の為にしかならないことだから、やらなくても誰にも迷惑をかけません。ただ、小さなことでも“自分にしかできない役割”を担うことは楽しく、そんな仕事に出会うために、勉強はひとつの効果的な手段です。勉強を、「目的」ではなく、自分の役割を持つための「手段」と捉えると、自分の未来と今の勉強が繋がりやすくなると思います。部活動の経験が思いがけず生きてくることもあります。

〔その他〕 吹奏楽部(と大学オーケストラ)で多くの人と一緒にあって、相談したり、

ぶつかったり、ミスをして迷惑をかけたりにながら組織を運営した経験が、会社では一番役に立っています。

【Fさん】 平成17年卒業 28歳

〔部活動〕 硬式野球部

〔進学先〕 慶應義塾大学法学部

〔職業〕 公務員（公立小中学校等事務職員）

〔秦高生へのメッセージ〕 感動したり、悔しい思いをしたり、衝撃を受けたり、といったような体験が成長の原動力になると思います。心を打たれるような、人生を変えてしまうような感覚を高校時代に味わえるかは人それぞれかもしれませんが、とりあえずは、とにかく自分が熱くなれるものに打ち込んで、広く色々な人たちと接するように心がけることが大切だと思います。

〔その他〕 自分次第で、おそらく100%、学校のため、生徒のため、教員のために仕事に取り組むことができる場所。また、公立小中学校の事務職員は1人配置のところが多く、私も現在1人で仕事をしていますが、そういった『1人職』の部分も、魅力的だと思います（責任も大きいですが）。

平成26年12月

< 秦野高校玄関前の紅葉（撮影：平成26年11月下旬） >



< 2月のマラソン大会[男子10km、女子5km]へ向けて（撮影：平成26年11月下旬） >

※秦野高校から東海大学前駅とは反対側に数分歩くとこうした光景が出現します

※左写真中白い横長のものは東名高速道路、中央に白く見えるのは雪を抱いた富士山です

